

1. 歌劇『ヘンゼルとグレーテル』 前奏曲 (フンパーディンク)

フンパーディンク (Engelbert Humperdinck : 1854~1921) は、ドイツ生まれの作曲家である。「楽劇王」ワーグナーのアシスタントを務めたことからその影響を多分に受けており、幕前の導入曲であるこの曲も「序曲 (Ouverture)」ではなく「前奏曲 (Vorspiel)」としている。

さて、『ヘンゼルとグレーテル』の物語は有名であるが、この歌劇の台本は、基となったグリム童話のそれとは少し異なる。そこで、この歌劇の“超簡単あらすじ”をお示しする。

第1幕 『兄妹の家』

(第1場) 貧しい箒 (ほうき) 職人の家で生まれたヘンゼル (兄) とグレーテル (妹) は、父母の留守中に箒や靴下づくりの手伝いをしている。ヘンゼルがしきりにサボろうとするので、グレーテルは「踊ろう！」とダンスに誘い、二人は踊りながら遊んでしまっている。

(第2場) そこに、母親が帰宅する。仕事をしていない2人に対して「食べるものがないから、イチゴを摘んできなさい！」と森へ送り出す。

(第3場) 久しぶりに箒が売れたおかげで購入できた食料をたくさん抱え、上機嫌で帰宅した父親は、2人がいないことに気づく。母親からその理由を知らされると「森には魔女がいて、子供を捕まえては魔法でジンジャーブレッド (Lebkuchen) に変えて、そして食べてしまう。」と言い、父母は慌てて森へ向かう。

第2幕 『森の中』

前奏曲「魔女の騎行」(ワーグナーの「ワルキューレの騎行」っぽい曲である。)

(第1場) 兄妹はイチゴを摘んでいる。たくさん収穫できたので、つまみ食いをしていて、あまりのおいしさに、食べつくしてしまった。そうしているうちに、あたりは暗くなり、2人はとうとう、帰りの道を見失ってしまうのであった。

(第2場) そこに、眠りの精 (Sandmännchen) が現れ、兄妹に砂粒をふりかけ眠りに誘う。2人は「祈りの歌 (Abends, will ich schlafen gehn)」を歌って眠りにつく。

(第3場) 14人の天使たちが、2人の夢の中に現れる。

第3幕 『お菓子の家』

序奏 (“朝の主題” が提示される。)

(第1場) 露の精 (Taumännchen) が現れ、兄妹を目覚めさせる。

兄妹は、夢の話をしながらか歩いていて「お菓子の家」を発見する。

(第2場) 兄妹はお菓子の家に近づき、「天使たちからのご褒美だ！」と言わんばかりに、建材となっているお菓子、つまり、“家”を食べ始める。

(第3場) そこへ魔女が現れ、2人を捕まえて、家の中に閉じ込めてしまう。

魔女は2人を焼き菓子にするために“かまど”に薪をくべた。そして火の様子をグレーテルに見させようとする、グレーテルは「あたしバカだから、やり方がわからない」と言い、魔女にお手本をせがんだ。魔女が仕方なくかまどの中を覗き込んだ、その瞬間！兄妹は、ありったけの力を込めて魔女をかまどの中へ突き落した。すると、かまどが大爆発を起こした。

(第4場) 魔女によってジンジャーブレッドに変身させられていた子供たちが眠った状態で現れる。

ヘンゼルが呪文を唱えると、子供たちは目覚め、魔法が解けたことを大喜びする。

そこに、兄妹の父母が現れ、再会できたことを喜び、「苦しみが高まった時は、神が手を差し延べてくださる」と、神への感謝のうちにハッピーエンドを迎える。

さて、今回演奏する前奏曲は、劇中に登場するアリア等を素材にしている。

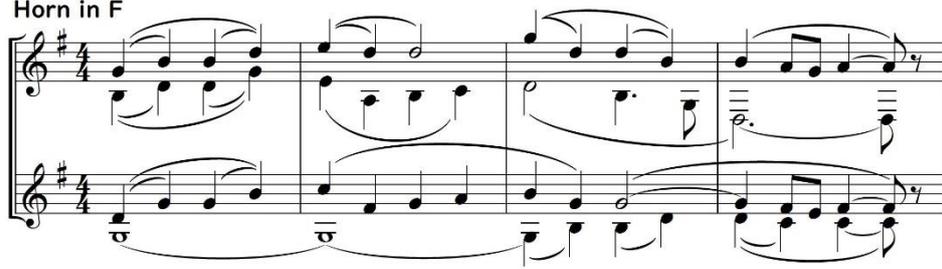
まず冒頭は、「祈りの歌 (第2幕第2場)」をホルンが歌う (譜例1)。

眠りにつくように静かになると、一転してトランペットが「呪文のフレーズ」を吹き上げる (第3幕第4場、譜例2)。創作的な展開が、弦楽器のピッツィカートによる呪文のモチーフをきっかけに鎮まると、続けてヴァイオリンに「朝の主題 (第3幕序奏)」が現れる (譜例3)。次に現れる木管楽器とホルンによるフレーズ (譜例4) は、魔法が解けた子供たちの喜びの場面である (第3幕第4場)。

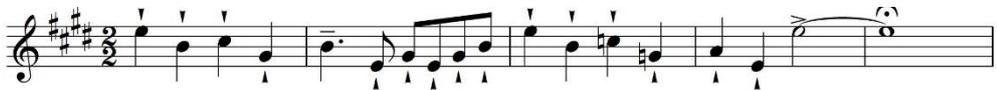
その後、4つのテーマが展開され、時には同時に現れたのちに、静かに曲を閉じる。

譜例 1

Horn in F



譜例 2



譜例 3



譜例 4



この歌劇には、前奏曲の素材として取り上げられなかったものの、親しみやすく、そして、認知度の高い曲がたくさんある。とりわけ、第2幕第1場の冒頭でグレーテルが歌う“小人が森に立っている (Ein Männlein steht im Walde)”は、某音楽教室のCMソング (下記譜例) の基となっているドイツ民謡である (劇中曲はへ長調)。

